

# イトウ親魚育成技術の開発

福島県内水面水産試験場 生産技術部

## 1 部門名

水産業 - 内水面(増養殖) - 内水面養殖業

## 2 担当者

山田学

## 3 要旨

県内でのイトウの安定した種苗生産を実現するため、親魚を異なる水温条件下で飼育し、養成技術について検討した。

- (1) イトウを飼育する県内の業者において、雄と雌の成熟期のズレなどにより種苗生産ができず、試験場に解決が要請された。
- (2) 県内養殖業者の親魚の養成では、年間の水温の変動が小さい地下水または河川水との混合水を使用しているため、雄または雌の成熟不調をまねいたと推測された。
- (3) 年間の水温の変動が大きい河川水(2.9 ~ 20.6 )、ほとんど変動しない地下水(11.8 ~ 13.5 )、その間である混合水(6.5 ~ 17.7 )を用いてそれぞれ親魚を飼育し、産卵期である2月から5月にかけての成熟状況を評価した。
- (4) 雄は、水温変動の最も大きい河川水区で、最も採精個体率、精子濃度、精子の活性が高く、かつ雌の成熟時期である4月下旬に近い時期においても成熟を継続させる事が分かった。
- (5) 雌は、混合水区、河川水区のみで放卵が見られ、水温の変動が大きい河川水で雄と共に飼育する事で良好な成熟が得られると考えられた。
- (6) 実際に河川水で飼育した雌雄から採卵、媒精させることができ、ふ化稚魚が得られ、種苗生産が可能であることが実証された。
- (7) これらの3区の飼育水の水温変動から、冬季は水温5 以下、夏季は20 前後の水温変動を目安にイトウ親魚を育成する事で、雌雄の良好な成熟が得られると考えられた。

## 4 主な参考文献・資料

- (1) イトウの養殖技術 株式会社緑書房